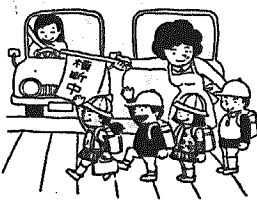


よい子を守る交通事故防止運動

止まろうね！ 見ようね！ 待とうね！

交差点 4月6日～12日



新入学期を迎え、例年ごとの交通事故が多発していることから、県民一人ひとりが正しい交通ルールとマナーを実践することにより、ごどもの交通事故防止の徹底を図ることを目的に、四月六日から七日間「よい子を守る交通事故防止運動」が行われます。

○ 家族でこどもの交通事故防止について話し合います。
○ こどもに正しい道路の歩行、自転車乗り方を教えます。
○ こどもの利用する自転車の点検・整備を励行しましょう。
○ こどもが通学、外出する時正しい道路の歩行等を具体的に教えます。

5月6日 狂犬病 予防注射を受けましょう

狂犬病予防法により生後九十一日以上の犬は毎年一回の登録と狂犬病予防注射を受けなければなりません。

Table with columns: 月日, 会場, 時間. Rows for 5/6 (水) at various locations like 農村環境改善センター, 木津分館前, etc.

○ お願い
当日は、ハガキ・印鑑・愛犬手帳・手数料四、七〇〇円をご持参ください。また、会場が混雑しますので、犬を制御できる人が連れてきてください。

4月5日は、村内一斉空かん回収日

各地域ごとに実施されますので、ご協力をお願いします。

新入学期を迎え、例年ごとの交通事故が多発していることから、県民一人ひとりが正しい交通ルールとマナーを実践することにより、ごどもの交通事故防止の徹底を図ることを目的に、四月六日から七日間「よい子を守る交通事故防止運動」が行われます。

村民著作の図書紹介
遠藤左一さんは、自分一人の名利は念頭になく、ひたすら、世のため人のために情熱を燃やし続けた。その六十年の男の生き方に深い感動を覚える。

「野戦高射砲第五十八大隊 戦跡慰霊巡拝記」
戦跡慰霊巡拝記は、遠藤さんが第二次大戦中三ヶ年半に及ぶ激戦の地、南方ラバウル方面の戦跡を訪れ、数多くの散華した戦友の霊を慰めようとする。

涙の鎮魂記録である。元大隊長、栗屋武氏など女性二名を含む十四名の慰霊巡拝団は、大隊の遭遇した激戦の地、三ヶ所で慰霊祭を執り行った。

甲斐文の朗読、君が代、海行かばの斉唱も声がつまり、すすり泣きで歌にならない。故国より草花の種子いく袋かを蒔き、咲く花を期待しながら亡き友の冥福を祈った。

昭和60年国調産業別就業人口割合

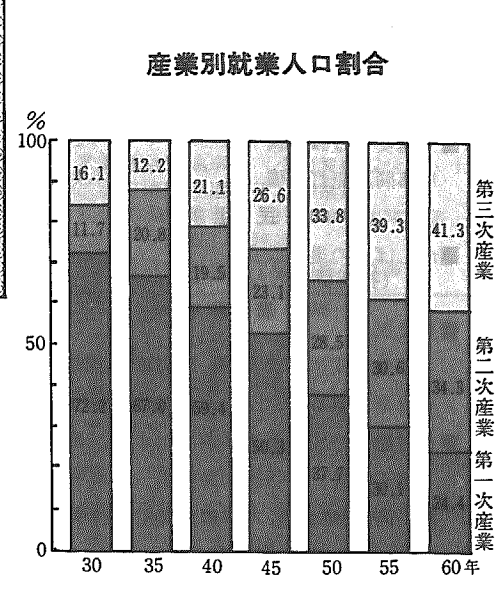
Table showing employment percentages for 1st, 2nd, and 3rd industries in Village, Prefecture, and National levels.

※国県は分類不能があるため100.0になりません 横越村の分類不能は1です

六十一年国勢調査の産業別就業人口割合は五年前に比べ、八割増の四千六百十五人となりました。産業別就業人口割合はグラフに示す通りですが、第一次産業はこの三十年の間に約三分の一に減少してしま...

60年国勢調査(就業人口) 第一次産業就業者数は三十年前の三分の一

ら、約十ポイントも高くやはり農業村であると言えるでしょう。
国、県ともに産業構造の変化に伴い第三次産業の就業割合が増加していますが横越村に於てもこの傾向が今後とも進むものと思われれます。



有線放送「明るい広場」で 塩井先生の短歌講座を企画
これは、村内の皆さんから短歌作品を公募し、選者の塩井三作氏より選評をしていただき放送するもので、このほど第一回目の公募を行い十一月十九日の短歌講座のなかで紹介されました。

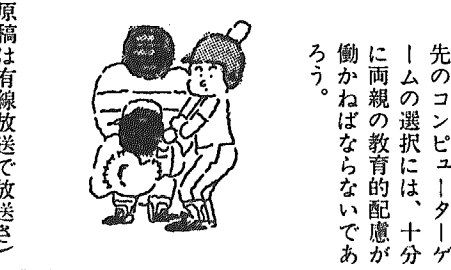
農業の後継者の少ないというところは、農村に育つて老人になった者にとって何とも寂しい現象ですが、そういう中で、田を埋めようという話しが進んでゆくというのです。

第二回啄木祭 記念講演会のご案内
日時 4月13日(月) 午後1時30分より
会場 横越村公民館
講師 新潟南高等学校 塩浦彰先生
主催 横越村文化協会

田を埋めるといふことは即ち農業が減ることなのですから誠に寂しいことなのですが現代の生き方としてそうするのが時代の勢いなのでしょう。寂しいと思っても結局は諦めるよりほかにないのであつて、この歌にはそうした背景の暗い寂しさが感じられる佳作です。

四月は「河川美化月間」です。河川をきれいにする意識を高めようと、建設省が昭和四十六年から行っている月間行事です。
美しい河川は貴重な財産です。河川をきれいにしましょう。
阿賀野川工事事務所

「生命」
行為は絶対に断たねばならない。
ものが豊かになると、すべてが人工的になってきていく。猟奇的な好奇心が湧けば、惨いことも残忍なことがなされても致し方がないとは、誠に怖いことである。
少なくとも幼時の時代より、敢然と是非を見極める人間を育てねばならない。子供にとっては、両親は最初の先生である。家庭教育の根本には、人の生命の尊さを徹底的に教え込まねばならない。
そういう論理からすれば、



を大切にする教育
先日のコンピュータゲームの選択には、十分に両親の教育的配慮が働かねばならないであろう。

母と子の会話
⑦ 板垣義雄
小学校に三人の子供を通わせている、近所の母親から相談を持ちかけられた。
去年、子供たちにせがまれて、コンピュータゲーム機を買ってやった。子供たちは喜んで学校から帰るとゲーム機を奪い合つて、学校の宿題などもそっちのけにしている。担任の先生から注意を受けた。

タン一つの操作で、あらゆる悪魔や障害を乗り越えて、勝利の座につくと言うストーリー(筋書)である。なる程、子供にとっては、主人公があらゆる手段を講じ、勝利者にのし上がる征服感に魅了されているのである。だが、何かわびしく、物悲しい気持ちに取つかれた。争い、征服、何か歴史のくり返しにならないか。